

2021年7月6日掲載
 輸送経済新聞

内製化さらに推進へ

第一貨物 社員純増と両輪で

第一貨物(本社・山形市、米田総一郎社長)は2021年3月期、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う物量減を機に、集配戦力の内製化を推進。平日を含む完全週休2日制導入による採用競争力の強化と両輪で、集配ドライバーでは129人の純増を実現した。22年3月期を「社員純増に向けた正念場(米田社長)」と位置付け、内製化による収支改善を果たし、さらに採用競争力の強化へと好循環を加速させる方針だ。

(矢田 健一郎)

前期は新型コロナウイルスの影響で、20年4～6月期の0人を超える集配ドライバーの純増があった。もう一つの柱であるロジスティクス事業こそ堅調だったものの、全体では21年3月期売上高が前期比4.2%減の706億円と厳しい中で、12億円の集配委託料削減の効果が寄与し、経常利益は1億800万円の黒字を確保した。

集配乗務員は
129人純増

結果的に通期の物量は20年3月期比8.2%減となった一方、下期にかけて現場への内製化の取り組みを進めた。社内では「週2休制」と呼ぶ完全週休2日制が10月にスタートしたことも想定

期待できる」と話す。

皆の努力報い
期末に慰労金

コスト削減が喫緊の課題

期となった前期、むしろコスト増となる週休2日制導入に踏み切った。実際には休日出勤で業務をやりくりする場面もあ

とおおむね口槽に業務を遂行できた。期末には、コロナ禍慰労金として1人当たりの3万円を給。集配については物量や人員配置の変化に常日頃柔軟に対応できるように、

従来のチーム制から各人の取扱物量に基づき手当を算出する給与体系に改めた。物量減、休日増の

戸川区、八潮社宅(増定していた19年3月期と比べて約8%減少する計画。引き続き、採用拡大、内製化を推進する。

22年3月期は、売上高は前期比2.8%増の726億円、経常利益は前期比3.6%増を想定する。それでも、消費増税幅に回復させ7億8000万円を目標とする。